

特集

思春期の自我体験と「異界」について

「異界」というと、何かスピリチュアルな響きがありますが、そういうお話ではありません。

心理学者の大山泰宏は、前思春期・思春期（9-10 才頃から 15 才頃）の子どもたちにとっての「異界」への興味の発達上の重要性を指摘しています。

「異界」とは、端的にいうならば「ここではないどこか」、「向こう側の世界」のことです。

一時期は、全国の小学生の子どもたちの間で「学校の怪談」ブームがありました。小説やマンガでも、近年流行しているものも含め、鬼や妖怪など「この世ならざるもの」が我々の住む世界に侵入してくるモチーフが定番です。いずれも、「今、この世界」と「異界」の接触の物語といえます。

なぜ子どもたちは、いつの時代もこのような「異界」に興味を持ち、憧れ、密やかに語り合うのでしょうか？

子どもの発達段階が、前述の前思春期に入ると起きる重要な現象として、自我体験と呼ばれるものがあります。

この頃の子どもたちは、認知機能の発達により、論理的思考から抽象的思考までできるようになります。これにより、自分自身のことや、現実的な未来のこと、他人の気持ちを推し量ることに目が向けられるようになります。それは新たな能力の獲得であると同時に、「今まで当たり前だったことが当たり前でなくなる」体験となります。この「自明性の喪失」とも言える体験を、発達心理学の用語で「自我体験」と呼びます。「今まで当たり前だったこと」の最たるものは自分自身であり、彼らは、大人と子どもの境界に立ち、自分という存在の、そして世界の大きな揺らぎを経験します。この揺らぎを切り抜けた先に、どうやら「大人」というものがあるようです。

この体験を耐え抜くための一つの支えが、冒頭の「異界」だと言われます。

子どもたちが自明性の失われた、言葉にできない違和感のある「異界」の物語に触れることで、自らの内面の自我体験を外界に出して、落ち着いて眺めることができるようになります。同じ揺らぎを抱える友人と共有することで、この揺らぎの中で自分は決して一人ではないのだ、という安心感も得られるでしょう。これを対象化と呼び、人が内面の問題や葛藤と客観的に向き合うためのプロセスです。



ユングは社会における役割を果たすために、人はペルソナという仮面を作り、その過程で「自分の中にある許し難いもの」が内面に沈殿していくと提唱し、これを「影」と名づけました。影は自分の弱さや、不完全さ、狡さや、人にはいえない欲望かもしれません。そうした面を持たない人などおらず、明るい面と両方があって初めて人なのだと思いますが、無垢で純粋で世界が完全性に満たされていた子どもたちにとって、それを自分自身のこととして向き合うのは大変な衝撃でしょう。

その衝撃に寄り添ってきたのが、「異界」への興味関心であり、「異界」の物語です。

今どきの子どもたちは、という表現はあまり好きではありませんが、それでも不登校児童の増加、若年者の自殺数の増加を思うと、昨今の子どもたちの苦しさ寄り添ってくれる「異界」が失われていかないか、心配になることがあります。

思えば SNS や動画などのネット空間も一種の「異界」でしょう。しかしそれらは、大人たちも立ち入ってきて、全世界に開かれており、子どもだけの世界とは言い難いものです。多くの利用者は、自らの私生活や私的な思いを発信しています。これは「異界」というより、「影」を明るみに引っ張り出し四方八方からスポットライトを浴びせる世界にも見えます。情報過多で、ある種過保護的な今の社会は、「影」ができないように尽力しているかのようです。

筆者は一概にインターネットやゲームを悪者にするつもりはありません。その世界でもたくさんの素晴らしい体験も生まれるでしょう。しかし一方で、今回のような視点で見た時、子どもたちが安心して我々大人の世界を、違和感を持った眼差しのまま見つめられるような「異界」が、これからも子どもたちの支えとなることを望んでやみません。

【 担当：小児科 中島 隼也 】

第26回 菊川市立総合病院・市立御前崎総合病院 合同カンファレンス

令和7年10月22日（水）に第26回菊川市立総合病院・市立御前崎総合病院合同カンファレンスを開催しました。病院や医師会などから60名の参加がありました。

当院からは、整形外科 村井 玲那 医師が発表しました。会場からの質問も多数あり活発な意見交換ができました。

< 演 題 >

- 1) 手の感染症に対する持続局所抗菌薬灌流（CLAP）法の小経験
菊川市立総合病院 整形外科 村井 玲那 医師
- 2) UKAについて
市立御前崎総合病院 整形外科 堀口 航 医師
- 3) メニエール病様症状を呈した中枢性病変
石崎耳鼻咽喉科 院 長 石崎 久義 医師



次回は、令和8年2月6日（金）に市立御前崎総合病院で開催予定です。詳細が決まりましたら、ご案内させていただきますので、ぜひご参加くださいますようお願いいたします。

MRI 装置が新しくなりました！

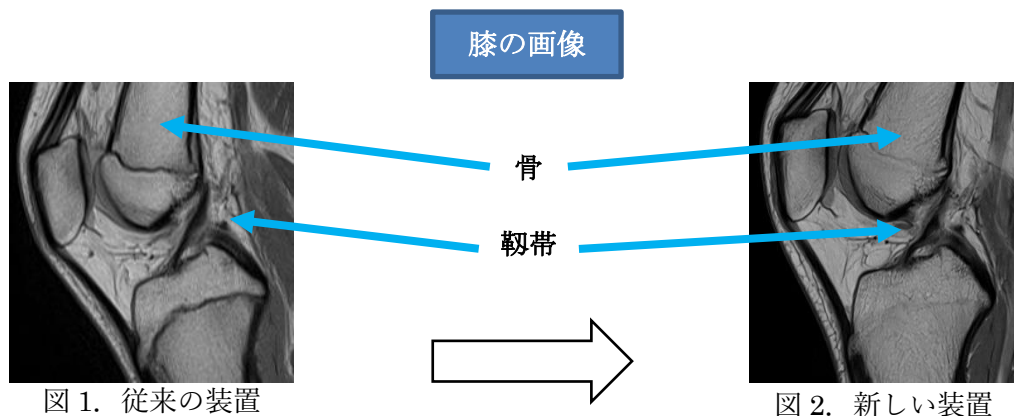
この度、新しいMRI装置（磁気共鳴装置）を更新しましたので紹介させていただきます。この新しい装置により、患者さんの検査時間によるご負担を減らし、より質の高い検査が提供できるようになりました。

【新しいMRI装置の特長】

・AI技術で、より短時間・高画質な検査が可能に

AI技術を搭載したことで、検査時間の短縮と画質の向上が可能となりました。たとえば、一般的な膝の検査では、これまで約19分かかっていた撮像時間が約14分に短縮されました。また、従来よりも鮮明で高精細な画像が得られるため、より正確な診断につながります。

従来の装置（図1）よりも新しい装置（図2）で撮影した画像の方が、骨や靱帯がよりはっきりと映っています。



・環境に配慮した「エコ」な装置

装置の更新にあたり、既存の装置の主要部品を再利用することで、資源の節約とコスト削減をすることができました。また、省エネルギー技術により、消費電力を平均で約30%削減し、環境負荷の低減にも貢献しています。



MAGNETOM Sola Fit
SIEMENS Healthineers 製

当院ではこれからも、安心・安全な医療の提供に努めてまいります。何かご不明な点がございましたら、お気軽に診療放射線科までお問い合わせください。

【 担当 ： 診療放射線科 木下 峻 】

診療実績

○受託検査実績

項 目	9月	10月
C T	36 件	45 件
M R I	31 件	33 件
超音波検査	14 件	19 件
その他検査	7 件	9 件

○診療実績

項 目		9月	10月
紹介患者数		281 人	312 人
逆紹介患者数		226 人	226 人
1日当り 患者数	入 院	171.0 人	190.4 人
	外 来	407.4 人	389.4 人
病床利用率		66.8 %	74.4 %
救急搬送件数		90 件	122 件

【 発 行 】

菊川市立総合病院 地域医療支援課 〒439-0022 静岡県菊川市東横地 1632

TEL：0537-35-2344 Eメール：renkei@kikugawa-hosp.jp

FAX：0537-35-2843 ホームページ：http://www.kikugawa-hosp.jp



©菊川